

マヒドン大学短期語学留学

評価・報告

参加者・回答数 10人

5：とても良かった 4：良かった 3：どちらともいえない 2：良くなかった 1：全く良くなかった

■ 語学研修全体の総括

評価	5	4	3	2	1
回答数	10				

<感想>

- ・ 語学だけでなく、多様な経験ができた充実した研修だった。特に **Field Visit** のような学外での活動が充実しており、タイの様々な側面を窺うことができ、考えることが多くあった。
- ・ 今回の語学研修では、語学を教室で学ぶのみならず、タイの学生と交流したり、町へ出かけて買い物をしたり、というように学んだことをすぐに実践に活かすことができた。その必要性から、授業でも積極的に発言や発声練習を行うことができ、とても中身の濃い時間を過ごすことができた。
- ・ フィールドワークや日々の食事など、マヒドン大学の方々の歓迎振りは相当なもので、そこまでしていただいて申し訳なくなるほど有難い、と感じることもしばしばあった。中でも「ムエタイに行きたいです。」の一言で、本当に予定へ組み込まれたのにはさすがに驚きを隠せなかった。
- ・ 良い部分もあり、悪い部分もあったが、総合的には大変良かったと思う。特に、マヒドン大学側のタイを知ってもらおうとする姿勢はこちらとしても非常に嬉しかった。そして、その構成は非常にすばらしく、普通では知りえない、または経験できないタイのことを知ることができた。ただ、あちらの好意は大変嬉しかったが、あまりにも過剰なもてなしで、接待に近いものに思えたのが少し残念だった。私たちは、学生なので学生らしい違ってもてなし方があったのではないかと思う。
- ・ タイの学生とは、これが2週間強の研修とは思えないくらい深く交流することができて（最終日には思わず泣き出すくらいです）、それが1番充実したと感じることだ。
- ・ 参加者の人数もとても都合がよく、みんな一人一人が打ち解けあえて、同じ経験や気持ちを共有し合えたのも良かった。
- ・ 本当に充実していました。タイの学生や先生、スタッフの方々みなさん親切で明るく、一緒にいて楽しめた。また、拙いタイ語も熱心に聴いてくれるので、タイ語上達の助けとなった。
- ・ 比較的短い間で、タイ語をかなり習得することが出来たが、何を1番得たかというところ、タイの方々からのおおらかさだ。同じ人間であることの喜びのようなものを感じた。また色んなところに行って色んな人と接したいという欲がたくさん出てきた！

■ タイ語の授業全体

評価	5	4	3	2	1
回答数	6	4			

<感想>

- ・ 授業は殆どすべてが午前中に行われ、授業で習ったことを午後のアクティビティーですぐ試せるというのは、実践的でとてもためになった。
- ・ 日本で五日間のタイ語の集中講義を経て行ったため、現地でもスムーズにタイ語に取り組むことができた。
- ・ 九大で集中講義を受講した人としてない人とでクラスも分けてもらったので、それぞれのペースでしっかり教わることができて良かった。
- ・ クラスは6人という少人数で進められたため、わずかな疑問点もすべて尋ねる機会があった。
- ・ 先生の日本語は大変流暢で、困ることはいっさいなかった。内容も僕らが学びたいことを中心に進めてもらったので、授業を楽しく受けることができた。
- ・ 先生は日本に留学されていたせいか日本文化や生活、日本の味もご存知であったため、タイの文化や言葉の感覚の違いなど、広く話がはずんだ。後半からは授業というテキストに沿った形ではなく、日常会話の中で知りたい言い回しなどを自由に質問し、それに関連付けて授業を進めていく形式だったので、より一層学ぶ意欲が出た。
- ・ 授業数は物足りなく感じた。1週目は割ときちんとやったほうだと思うが、2週目は1日1時間しかなかった上、その1時間すらもまともにやったのは1・2日ぐらいだった。
- ・ 授業のコマ数が少なすぎた。あまり授業ばかりでも面白くはないだろうが、もう少しあった方がよい。
- ・ 一日1～2時間と、短かったので物足りなく思ったが、日々の疲れもあったので、そのくらいの時間がちょうど良かったのかもしれない。
- ・ タイ語は本当に難しく、少ししか話すことが出来なかったが、毎日楽しい授業だったので、楽しく学習することができた。ウィッパー先生に感謝している。
- ・ 特に良かったと思えるのが、仲間と楽しみながら勉強して、そして身につけていったところだと思う。また、タイの日本人クラスとの交流がより刺激になったのか、彼らと何とか話そうみんな一生懸命に勉強していた。ただ、私はついていけなかった。
- ・ 少人数であること、そして実践のための語学授業であったこと、それがあの素晴らしい授業の元になっているのだと思う。大学に入ってから、こんなに楽しい語学授業を受けたのは初めてだった。というか、語学の勉強はこうあるべきだと思った。人とコミュニケーションが取りたいからこそ、語学の勉強をしたいと思えた。春にタイのみんなが来るので、それまでにもっとタイ語を上達させたい！

■Field Visit 全体

評価	5	4	3	2	1
回答数	8	2			

<感想>

- Field Visit は、プログラムのなかでも多くを占めていて、一般的な観光地だけでなく、地元の市場、農園、蘭や蓮の農場、マヒドン大がプロジェクトを行っている村など、観光でタイを訪れるだけではできないと思われる所が多く、タイの生活様式を強く実感できた貴重な経験になった。
- アユタヤなどではガイドさんもつけていただいて、ただの観光だけじゃなくその地の背景なども勉強できたし、ほぼ毎回カメラマンもいらっしやったのでたくさん思い出の写真もとってもらい、毎回毎日がとても刺激的で充実していた。
- 40度前後の猛暑の中で歩き回るのはみんなさぞかしきつかったようだ。私はまだ10代なのでぎりぎり大丈夫だったが、本当に危なそうな人もいたような気がする。しかし、その疲労と引き換えにたくさんの感動を得ることができた。
- 個人では金銭的に厳しかったムエタイ観戦まで果たすことができ、格闘技大好きの私が感激したことは言うまでもない。
- 最後に行った漁村が良かった。バンコクや観光地には分からない本当のタイ人の生活を感じられた気がした。アユタヤをはじめとした遺跡は行く意味があったのかどうか微妙な気がする。旅行会社のツアーや個人旅行でも行けるような日本人だらけの所に行くのが今回のプログラムに掲げられた「文化を学ぶ」という意味を満たせているのかは微妙。前半に自由時間を持って、「行きたい人は行ってもらう」という形式を取り、全体で行く形式は辞めた方が良いのではないかと、というのが個人的な意見。
- 全体を通してだが色々な所に行きすぎていたのでは。やはりバスで長距離移動し、灼熱の太陽の下歩き回るのは相当疲れる。1週間目の終わり辺りで明らかに全員に疲労の色が見えだしていたし、特に週末は過密すぎた。日曜日だけ完全な自由日にして休みをとるなどした方が良いのでは。
- 最後の日の村を訪れる課外授業は非常に勉強になった。実際に、低辺層の暮らしぶり、特に生計の立て方を目の当たりに出来たのはこの上ない貴重な経験になったと思う。全体的には非常に工夫した構成になっていて面白かった。
- タイの発展した部分にも、伝統的な農業や漁業にも触れられたこと、そしてアユタヤ・エメラルド寺院など歴史的なものに触れられたことにとっても感動した。そして、日本の色々な遺跡や、東京とか大阪とか都会のことを、じっくり考えるきっかけにもなった。

■ Field Visit 以外の課外活動全体

評価	5	4	3	2	1
回答数	7	1	1	1	

<感想>

- ・ 主に午前中にレクチャーがあり、午後からは活動に移る形式で、タイの **music**・**cooking**・**dance** という活動があり、どれも非常に楽しんで参加できた。**music** はタイの伝統楽器の専門の先生方が、**cooking** は併設されているホテルの料理長や調理師の方からご指導いただいた。
- ・ タイの学生と交流する機会が多く、そこでは短期留学してきた日本人学生というお客様の感覚ではなく、マヒドン大学の1学生のような感じで過ごすことができ、また違った意味でとても充実していた。また、タイの学生の生活の様子などを知ることができてよかった。
- ・ 日本語の授業に参加できたのもいい経験になった。改めて日本語の難しさを実感した。最終日には MUIC の授業にも参加させてもらい、留学先での授業を想像することができた。
- ・ 各活動の中で参加者 10 人それぞれの向き不向き・得意不得意があったのもよかった。2 週間という短い期間の中で、様々な活動があったからこそ互いのことがよくわかったと思う。
- ・ 音楽やダンスやらをしたが、どれもあまり興味がわかなかった。私見だが、先生に習うよりも現地の学生に習った方が仲良くもなれるし、やる方としても楽しいのではないかと、思った。あと、ムエタイが習いたかった。
- ・ どれもタイのことを学べる、よい機会だった。ただ、バスでの送り迎えなど、管理されていたので、もう少し自由にさせて欲しかった。安全面で仕方ないのかもしれないが…。
- ・ 料理の実習が非常に面白かった。今までタイ料理には何度か挑戦したのだが、これといった味が出せずに苦労していた。今回、その謎が解けた。特に、グリーンカレーとトムヤンクンのあの味の出し方がわかっただけでも私の中ではこの活動は大成功だと思う。ただ、歴史の授業は日本語で行って欲しかった。専門用語が多用されるので、英語を聞いていて、急に専門用語が入ると混乱して途中でわからなくなってしまった。
- ・ 私は特に、タイの伝統的な音楽に触れられたことが嬉しかった。現在軽音楽部で活動しているので、タイの独特な拍子の取り方にすごく惹かれるものがあった。それと、音楽をするために、音楽の神様にお祈りをしに行ったことも印象に残っている。
- ・ 予定がつまりすぎていて少々きつかった。課外活動の時間を減らしてタイの学生との交流の時間を増やしたほうがいいと思った。

■ タイでの生活、寮での生活

評価	5	4	3	2	1
回答数	6	4			

<感想>

- 寮は3~4人部屋で、広さ、設備ともに快適に過ごせた。
- シャワーが水しかでないことは事前知っていた方がよいかも。お腹を壊しやすい人などひよっとしたら困るかな…と思った。
- スーパーは近くにないが、大学内にもコンビニや生協があるので、不便さは感じなかった。
- 最初は戸惑った面も多々あったが、マヒドン大学側の手厚いサポートもあり（例えば冷蔵庫など何か困った点があれば、いつでも聞いて、すぐ何かしらの対応していただいた）、すぐ馴染むことができた。
- 2回目のタイだったので、驚くことは特になかったが、改めていい所だと感じた。寮は毎日ベッドメイキングがしてあったり、タオルが替えてあったりと、ホテルのようだった。歩いてすぐの体育館ではタイの学生たちとバスケットボールを楽しむこともできた。
- タイはとにかく気温や湿度が高く、日中は黙って外に出ているだけで汗が流れ落ちてくるほどだった。しかし、暑さがきついのはフィールドビジットの時くらいで、あとは冷房の効いた室内かバンでの移動だったので楽だった。今考えると、その気温差によく誰も風邪をひいたりしなかったな、と思う。
- パソコンに関する事前情報がもう少し正確な方が良かった。結局事前書かれていた無線LANは使えなかった。そのかわりそなえつけの2台のパソコンはかなり使いやすかった。結論。ノートパソコンを持っていく必要がなかった（持っていくのが結構重かった）。
- タイでの生活はとてものんびりしていてストレスが全くなく、日本にいるより健康的で過ごしやすい環境だった。そのため、帰国してから日本での煩雑な日常にしばらく適応できなかった。
- 研修参加メンバーがすばらしかったので寮の生活もたのしかった。
- はじめは10歳も離れている人たちに溶け込めるかどうか不安だったが、あちらも気を遣ってくれたのか上手くいったと思う。ただ、気候は思ったとおりに暑く、湿度も高く、最悪だった。

■ 語学研修の実施時期・期間

評価	5	4	3	2	1
回答数	5	3	1	1	

<感想>

- ・ 実施時期は、8月に集中講義を受けて9月に研修に行くという、この時期でよいと思う。
- ・ 9月は雨季ということだったが、大抵夜に雨が降るので、活動に支障がでることはほとんどなかった。
- ・ 研修時期は、タイではちょうど雨季だったが、日本で暑さと戦うよりいっそのこともっと暑いタイで戦うほうが良いと思う。
- ・ 八月中旬に学科の専攻試験を控えていたため、個人的には今回の時期に実施していただいでちょうどよかった。
- ・ 時期的にも少し暑いだけで、気候的にもそんなにきつくなかったので、よかったと思う。
- ・ 暑かったことと、雨期だったことを考えると、もう少し、後に時期をずらすと良いと思う。
- ・ 春休みはあちらでは酷暑にあたるので、この時期がベストだと思う。というのもこの時期でさえ、暑さで非常に体に負担を掛けたのに、酷暑の時期だと倒れる人が出るのではないかと思われる。
- ・ 期間はもちろん長いに越したことはないが、2週間程度でちょうどよかった。
- ・ 参加した学生それぞれが日本でのタスクもあるので、2週間ぐらいでないと参加が難しくなるということもあるのではないかと思う。
- ・ **Field Visit** などがとても充実していて、特に1週目あたりは怒涛の毎日だったので、**Free Time** や休憩の日をはさむことを考えるともう少し長くても良かった。
- ・ 期間は3週間くらいあった方が良かったと思う。
- ・ もっと長くて、今回よりももっとゆったり予定が入れられていてタイ語授業がもっと多ければ、余裕を持って語学に励めたと思う。

■ 集中講義について

集中講義を受講した上で語学研修に参加したこと 対象者：6人

評価	5	4	3	2	1
回答数	5	1			

<感想>

- ・ 基本的なことをやった上で生活が始まったので、あとは単語を覚えていくことをメインに勉強できた。
- ・ 集中講義の中で行われた、タイの歴史や文化、タイ料理などの授業を通してタイへの興味が湧き、語学研修へのモチベーションも上がった。
- ・ タイの学生と交流するとき、買い物するとき、自分の気持ちを表すときに便利な言葉などをタイでの授業でたくさん習うことができ、タイでの生活がより楽しいものとなった。これは、わずか5日間とはいえ、集中講義で事前にタイ語の基礎を勉強する機会を持てたおかげだと思う。
- ・ 現地に行ってタイ語をすぐ試せたことが嬉しかった。また、タイでの授業時間が短かったので、日本で時間のあるうちにじっくり丸一日かけて勉強できたことが、タイ語を身につける上で良かったと思う。
- ・ 自己紹介の仕方を事前にならっていたので、最初のスピーチのとき役立てることができた。授業でタイがどのような国なのかなどについても学べていたので、タイにすんなりとけこむことができた。
- ・ 受講した私たちのほうがコミュニケーションをタイ語で取ろうとする意欲が大きかったように感じた。受講していない人たちはほぼ最後までタイ語を使うことは少なかったのだが、やはり受講した人たちは多くのタイ語を実践してみて通じた喜びを得ていたと思う。

集中講義を受講せず語学研修に参加したこと 対象者：4人

評価	5	4	3	2	1
回答数				2	2

<感想>

- ・ 研修始まった当初は、集中講義を受講した人たちが先生と話していることや質問の内容に全くついていけず、かといって自分から話そうとしても、話すきっかけや何を質問したらいいのかも全くわからない状態なので、最初のほうは大分、受講者との差を感じた。2週目になって、やっと受講した人たちの1週目に追いついた感じで、でもそれを感じることができたのはとても嬉しかった。今となっては全く知識のない状態で、身ひとつで飛び込むのも貴重な体験だったし、タイ語の知識も自分なりに身についたので、そこまでマイナスには思っていない。
- ・ この点に関して、悪いことこそあれ良いことなどなにもなかった。もともと早い者勝ちで履修できるという（集中講義の履修）システムにかなり不満だったのだが（メインキャンパスで有利不利もあるだろうに）、やっぱり現地に行っても不満は大きくなるばかりであった。既習者がタイに着くなり知っている表現を使って早速使い出していたのに比べ、未習者組は早くても1週間経過したくらいからでないと使えなかった。提案だが、今回は「集中講義受講者を優先して選抜する」となっていたが、逆に「タイ語研修に参加する人に対して優先的に集中講義を受講する権利を与える」方が良いのでは。

■ その他

(日常生活や研修に参加して考えたこと、改善事項や要望事項など)

- 本来スケジュールにないことでも、ムエタイ観戦など、学生の要望に対して柔軟に検討してくださり、ただただ感謝するばかりだった。また、英語での授業もあるので、英語力の必要性を感じることもあった。
- 今回の研修は、いろいろな事情で一度諦めかけていた交換留学について、さらにまた考え直すきっかけになった。もう一度前向きに検討してみたいと思う。あと、またこのような研修を来年もぜひ行ってもらいたい。
- タイにいる間、これまでで一番ゆったりとした気持ちで夏休みを楽しめた。学科の専攻試験や英語の試験を終えてのタイ入りだったことも大きな要因ではあるが、それらに加えて、タイ独特の「マイペンライカ」(気にしないで、どういたしましてなど、謝罪やお礼への返答に使われる)ムードがそうさせてくれたのだろうと確信している。
- MUICを留学先の候補として挙げていた私にとって、最終日にMUICのクラスを受講させていただけたことは、すごくいい機会だった。授業初日の慌しい中、出席の是非を調整しクラスルームへ案内してくださったコーディネーターの方々、受け入れてくださった先生方、許可してくださった MUIC 副学長をはじめマヒドン大学の方々、そしてこのようなチャンスをくださった国際交流部の方々に、心から感謝している。
- プログラムがより良くなるよう、各項目に愚痴を書いたりしたが、例えなにも変わらずそのままやっただとしてもこのプログラムが最高であることにはなんら変わらない。本当に充実した2週間だった。特に私の場合、タイへ留学申請している状態だったのでなおさら良かった。マヒドン大生が日本に来た折には出来るだけのもてなしをしたいし、来年もこのプログラムがあるなら、来年は現地で九大生に色んなことを伝えたいと思う。成果発表会や、来年の募集時には学生も参加して説明会をするなど、帰ってきてからも色々しても良いかな、と思う。これからもこのプログラムがよりよく発展していくことを祈っている。
- 研修中は、移動にはバスを使い、食費を出して頂き、様々な所に連れて行って頂くなど、本当にお世話になった。これほど投資して頂いたものをどのように返すべきなのか。まずは、タイの文化やその魅力を、周りの多くの人に伝えたいと思う。
- 今回、研修でバンコクその後、タイの第2都市チェンマイに友達といったが、その格差にびっくりした。日本でいう東京と大阪といった違いではなく、東京と佐賀ぐらいの違いがあったと思う。バンコクだけを見ると東京以上の街で「タイも発展しているなあ」という感想を持ってしまいが、他の町が全くついていけない感じがする。また、マヒドン大学の学生もほとんど高校はアメリカで学んだということを知り、一方では教育熱心な国ということを感じ、また一方ではタイでの貧富の差はかなりのものがあるのではないのかと思わされた。今回、研修の期間中に安部総理が辞任し福田総理になるけれども、今後の日本はどうなっていくのか、興味深い。
- 大学に入って1番楽しい日々だった!!これも、マヒドン大学のスタッフの方々、教授の方々、学生の方々、そして九州大学の国際交流推進室の佐藤さん、吉川教授、そして2週間で共にしたメンバーのおかげだと思う。大変感謝している。
- 研修での移動が多く時間的にきつかった。もっと交流の時間を増やして欲しかった。あと、事前のチケットの手配が不手際だったので改善して欲しい。